

第 10 回 岸和田市丘陵地区整備計画検討委員会 議事録

日 時：平成 20 年 3 月 27 日（木） 10：00～11：20

場 所：岸和田市役所 新館 4 階 第二委員会室

出席者：久 隆浩委員

下村 泰彦委員

深井 勝美委員

三原 寛憲委員

道齋 芳雄委員

谷口 敏信委員

相良 長昭委員

角野 久義委員

河野 博彦委員

大松 忠男委員

黒川 孝信委員

櫻井 幹夫委員

事務局：明瀬、出原、久保、土橋、奥、坂部、渡邊、株式会社八州 畑中、堀下

開 会 午前 10 時 00 分

《事務局》

年度末のお忙しい中お集まりいただき、どうもありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから第 10 回岸和田市丘陵地区整備計画検討委員会を開催いたします。委員長からご挨拶をお願いいたします。

《委員長》

年度末の非常にお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。検討委員会としてはきょうで最後でございますけれども、前回にもお話ししたように、開発そのものがこれからの話でございますので、この構想を具体的にしていくために、またご協力いただきたいと思います。きょうは最後の確認をしていただきたいと思いますので、よろしく願います。

《事務局》

ありがとうございます。それでは次第に基づきまして、事務局より本日の議題の説明に入らせていただきます。

第 10 回の検討委員会ということで、今回基本構想のまとめを説明させていただきます。

《各資料を基に説明しております。下記は要点のみ記載しております。詳しくは別添資料をご覧ください。》

基本構想のコンセプトについて

『人々が元気で快適に生きがいをもって暮らせる“まち”』、『活力があり地域を輝かせる産業がある“まち”』、『地球と人にやさしい自然環境がある“まち”』の 3 つがある“〇〇〇タウン”を基本コンセプトとして設定します。

地域特性（資源と課題）、社会動向について

まちづくりに必要となる丘陵地区の資源や克服すべき課題と、少子高齢化に伴う人口減少、工場立地状況など丘陵地区を取り巻く社会の動向を検証しました。

開発の条件と方針について

地域特性や社会状況を踏まえ、丘陵地区を開発していくために必要となる条件として『地域資源を活かした開発』、『リスクの少ない開発』、『検討区域の各地区の特徴に適した開発』及び『地域との協働によるまちづくり』の 4 つを定義しました。

この条件に基づいて地区を開発していく方針は『地形を活かし、豊かな自然に溶

け込むゆとりのある住宅地の創出』、『地域資源と有機的に連携できる企業の誘致』、『農業基盤の強化と安全安心な農作物の提供』、『蜻蛉池公園や神於山との連携を考慮した自然資産の保全と活用』と『地区の活性化に繋がる地域コミュニケーションの形成』の5つが考えられます。

土地利用の方向性について

土地利用の方向性として、まず土地利用ゾーニングの選定を検証しました。条件として傾斜、営農状況や道路状況などを考慮し、社会動向を考え、周辺環境と調和した土地利用ゾーニングを選定しております。

また、『自然の骨格』として尾根筋や水系をできる限り保全することや、『交通の骨格』として交通条件に配慮した土地利用を図るよう検討しています。

これらを踏まえ、ある程度のまとまりを考慮したゾーンは、『住宅の魅力を向上させるゾーン』、『業務施設を中心とした農業との連携ゾーン』と『農業と道の駅ゾーン』の3つを創出しています。

以上の条件を検証し、土地利用構想図を作成しました。ただし、今回は丘陵地区整備計画検討委員会での土地利用構想ということで、今後はこれをベースに検討していただきたいと考えています。

事業の可能性としては、事業選択の視点を定めています。この視点に基づいた事業主体と手法の選定を引き続き検証する必要があると考えています。

地域づくりの方向性について

地域づくりの方向性は、土地利用される『住宅地』、『業務地』、『農空間』と『自然保全』の各ゾーンがそれぞれ連携することでお互いの価値を高め、共存することができることを検証しています。

また、まちづくりを実践している事例から、仕組みづくりを検証しました。これらの事例から成功の秘訣としては『地域の人々が徹底した話し合いをし、知恵を出し合う』、『社会が望むものをとらえるために情報の収集と発信を行う』と『運営していくためのマネジメントを行う』の3つが重要であると考えられます。

『○○○タウン』の実現に向けて

基本構想の実現に向けては、今後も引き続き有識者から情報やノウハウ収集し、日々変わる社会状況を見極めることなど更なる検証が必要であると考えています。そのためこれらを検証する組織として『仮称 岸和田市丘陵地区整備機構』の設立を提案します。

この機構は、『活動主体』、『アドバイザー』と『サポーター』から構成され、様々

な検証を行い、まちづくりを進めていくことが望めます。

《以上、各項目をそれぞれ説明後、》

『人々が元気で快適に生きがいをもって暮らせる“まち”』『活力があり地域を輝かせる産業がある“まち”』『地球と人にやさしい自然環境がある“まち”』の3つがある“〇〇タウン”の創造に向けて基本構想をとりまとめました。以上でございます。

《委員長》

今日の予定としてお聞きしているところでは、11時に市長がみえられますので、それまで私たちが最後の意見交換をさせていただくということになるかと思います。

冒頭の挨拶でも申し上げましたように、今回の場合は、大きな方向性を示させていただいたということでございますので、また来年度以降、地権者さんのご意向をお聞きしたり、あるいは私も入らせていただいて勉強会とか、他事例の情報収集なんかをさせていただきながら、具体化に向けて一步一步進めてまいりたいと思っております。

今後に向けての話でも結構です、この構想案の内容でも結構ですが、ご意見、ご質問ございましたら、自由に意見交換をさせていただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

《C委員》

56ページの案でございますけども、イメージ図でまとめられておるんですけども、大きい話の中で、非常に部分的なことで申し訳ないんですが、こういう地域のイメージをつくる時に、民間の企業、民力もあるんですが、JAさんの力というのは、こういう地域の場合に非常に出てくるんじゃないかということを感じておるんです。そこでJAさんの構想は色々と検討されておられるのかお聞きしたい。

もう一つは、よく話に出ておりますが、道の駅です。その構想も出てきておりまして、この前の検討の中でも、JAさんのお考え、市、府のお考えというの聞いておりますけれども、その後、これを作成するにあたって何か具体的な進展があったんでしょうか。

《委員長》

JA岸和田としての意見とI委員の個人的な意見と両方あると思いますが、その辺り使い分けながら情報をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

《I 委員》

活力あるという地域づくりのために、各部署でそれぞれの検討をしてると思うんです。最終的には連携して全体構想を実現化していくことが大事かなと思います。いまC委員さんにお褒めいただいて、力緩めることなしにJAとしても関わりを持たせていただきたいなというところです。

今日の、この基本構想というのは、一つの節目であって、最終ではありませんので、ここから具体的な動きの第一歩になるのかなという思いをしています。この中でもまもめていただいているような、次の全体を動かしていくための機構についても、当然地元のJAとして、農業、農地という部分では積極的に関わりを持たせていただく中で、どういうふうなまちづくりをしていくのか、その辺りは積極的に関わりを待たせていただくということについては、たぶん組織としてもお約束ができるかなという思いをしております。それぞれの構想については、どこかできちとした形で論議をして、タイムスケジュールも決めて、実現していくような形で、別のテーブルをつくる必要があるのかなという思いはします。ただ、関わるということについては、きちっと積極的にやらせていただくということだけ話させていただいたらなと思います。

《委員長》

私もいろんな産業の活性化とか地域の活性化をお手伝いしていますけれども、うまくいかない一つの要因は、どこか任せにしてしまうというところがあるんです。

例えば商業の活性化をやったとしても、市役所が何かやってくれるだろう、待っていたらうちの店も元気になるだろうという様なことになってしまうと、前へ進まない。

逆に、わしら頑張るから市役所も応援してくれ、商工会議所も応援してくれというような態勢になってるところは、まあまあうまくいっているということでございますので、商工会議所もそうですし、JAもそうなんですけれども、支援はできるけれども、お一人お一人が前向きに取り組んでいただいて、それを横につないでいくということが非常に重要かと思っておりますので、今回の構想の中でもそれはいろんなところに書かせていただいております。

みんなが横に手をつなぎあって進めていく、そこの支援をしたり、コーディネートをしてくださるのが一つの大きな役割として、JAにかかっているというふうに考えていただいて、頑張らせていただければと思います。

《B 委員》

私も、いま委員長がおっしゃられたことに同意するんですけど、ただし、この話ができ上がってから約20年たってると思うんです。ここでは話がかなり前へ進んでいますけれども、地元へ帰ると、もう20年も経過してますので、熱というか、そういう気が全然も

ってないのも一つです。

市の土地になってるお人は、別に関心もっておりません。ただ関心をもっておるのは、我々一部分を市に譲ったというのか、そういう形の間人だけが関心もっておって、また、その中に加わってない人もあまり関心もっておりません。

だから先ほども話がありましたように、地権者というか、権利の、それをどう処理していくのか、申し上げますと、市も地権者の一人だと思っんです。だから行政がどのへんまで関わってくれるのか、そのへんも一つお伺いしたいところなんです。

《事務局》

当然市も大きな地主でございますので、一緒にやらないといけないということでございます。おっしゃられるように、すでに20年も経っておりますので、非常に荒れた状態の所もたくさんありますし、分散した状態という所もありますので、何らかの整理をしないことには管理も難しいというのが現状でございますので、市も一緒になりながら、相談していききたいなと考えております。

《B委員》

次できる委員会がそのへんの交渉までしていくのか、ある程度市も関わってしてくれるのか、そのへんに一つ問題あると思っんです。その区域の中で、まだ未だに個人の所有になってる所をどう片づけていくのか、一番大きな問題だと思っんです。

正直申し上げます、私もここに協力はしておりますけども、当初の協力は、何とか協力してほしいということで、我々は関わった訳です。だからそのへんをよう考えといてほしいと思っんです。前から話がありますとおり、何かにつけて地権者、何かにつけて地権者が主体やということですけども、そのへんに若干疑問を持つんです。当初の話がどういうことだったのか、もういっぺん振り返ってもらって、そのへんから話をまた進めていってもらわないと、あんな地権者やさかい協力せえ、やれということでは、話が向こうへ進まないん違うかと思っんです。

《K委員》

構想案がきれいにまとまりまして、我々地主代表で寄せていただいております、2年間勉強させていただいた成果だと思っておりますけれど、地主も何か説明せんといかんとお思いますので、これをもっと圧縮したというか、冊子の小さいものこしらえていただいて、説明会しないと、どうなってるのかさっぱりわからん、いまB委員が言われた話の延長線のことでございますけれど、やっていききたいなと思っております。そのへんはどのように考えていただいておりますのか、お聞かせいただきたいと思っております。

《委員長》

具体的には基本構想をどういう形で地元の方々にご説明いただくかという、手法の話はどうか。

《事務局》

当然今、来られている方々に全部お願いするというわけにはいきませんし、我々も前回地元の地権者協議会に行かせていただいて、中間報告をさせていただきました。これからいろんな内容固まって、本日委員会としてのまとめになりますので、それを受けて、市としてどうするのかというのを、早急に方向づけをしまして、説明会等、当然していかないといけないと思っております。

今後推進機構に協力していただきながら、どういう形で地元と相談したらいいのかというのをご説明したいと思えます。できるだけ早く立ち上げていきたいと思っております。

《委員長》

場合によっては、地権者の方々とか、市役所の方が、そのほうがいいとおっしゃるのであれば、例えば私も一緒に出かけさせていただいて、なんでこういうように百八十度いままでとは違う構想になったのかというところの話を、前座的に話をさせていただいて、そのあと構想の内容を説明いただくという、二段構えでもいいのかなと思っております。

J AではI委員に呼んでいただいて、これからの農業というのはこれまでの農業の考え方と違うだろうという話もさせていただいた経験もございますので、そんなことも含めて、少しお手伝いができることがあれば、させていただいたらと思えますし、先ほど20年たったというお話がありましたけれども、別の見方をすれば、20年でかなり世の中の状況とか開発のあり方も変わってきてますので、そのあたりも世の中どういうふうになって、これからどういうふうな開発のあり方がふさわしいのかという話も含めて、私のほうでもご協力させていただくことがあれば、させていただきたいと思っております。

《副委員長》

56 ページ、57 ページ、今後のまちづくりの進め方が記載されておりまして、特に57 ページを拝見してますと、3つの大きな目標が設定できたと思うんです。1つは、人々が元気で快適に生きがいをもって生活ができる、そんな暮らしを実現化させていくという視点と、その次が農業を中心とした産業の活性化と産業誘致という、そこで何か営みをするということがオーソライズされたということと、もう一つは、自然環境を十分活

かし環境を守っていこうという、この3つを少なくともここでみんなで合意ができたということは、非常に大きな基本構想としての視点だと思ってます。また、それを推進していくために、いまの検討会からさらに一步前進して、大きな組織化しようというのが56ページで書かれていますが、これもこの場でずっと議論されてきた中で決定したというのは、非常に大きいことだと思います。

先ほどI委員もおっしゃいましたけれども、これは大きな考え方が一つまとまっただけで、さらにここからヨーイドンだということが、組織化ということであらわれてると思います。自分も参加させていただきながらやってきましたけれども、その大きな方向性とこの3つの視点ができ上がった、これが非常に大きいことだと思っております。

そういうことで、委員長もおっしゃいましたように、これから地元の方々がどれだけ意見をまとめていけるかという話と同時に、ここでは一つのまちをつくるわけですから、丘陵地区の検討を進めていく部局のみならず、全市挙げて、さまざまな、たとえば都市計画や、いろいろ基盤施設を整えなければなりませんので、そういういろんな部局が一緒に入ってきて、全市挙げてやっていけるという体制をつくっていくということが、実現化に少しでも近づくんじゃないかなと思います。

《委員長》

この構想は、例えば10年ほど前の構想とはかなり違うと思うんです。そのあたりを副委員長もご説明いただいたと思うんですけれども、従来の構想は、しっかりと絵を描いて、これを10年、20年かけて実現をしていくというやり方が多かったですね。ですから土地利用構想図がどうなってるんだ、ここの土地がどうなるんだ、誰が金を出すんだという話になるのが従来の開発だったんですが、今はそういう時代でもなくなってきます。

それは何かというと、5年経ったら世の中が変わって、どういう風になってるかわからない。この前からM委員も言うてくださってますけれども、例えば5年前の工場誘致の状況と現在の状況は変わりましたし、また5年後どうなるかというのが、世界の動きが非常にスピードが速い、変化が早くなってきてますので、20年前に描いてる絵どころか、5年前に描いた絵も変えていかないといけないような、変化の激しい時代に入ってきてます。

そういうときには、従来のようにしっかりと絵を描いて、時間をかけてやっていくというよりも、その当時、当時の社会の状況を踏まえながら、柔軟に、大きな方向性は変えませんが、中味を少しずつ微修正しながら、場面、場面にあわせながら考えていかないといけないという世の中に入ってると思うんです。

そのために、絵を描くよりも仕掛け、仕組みをしっかりとつくっておいて、年に何回もお互い話し合いを重ねながら、いまこういう状況だから、どちらの方向に修正かけてい

くんだということを検討しながらやっていくという姿勢が、これからの開発計画では非常に重要なと思いましたので、こういうタイプの絵を描かせていただきましたし、私もずっと、特に終盤戦には、またこれからも一緒に頑張らせていただきますと言ってるのは、絵を描いて、10年後にどうなってますかという、そういう関わり方だと、我々もいけないだろうと思ってます。常に一緒に描かせていただいた絵を実現するために、一定の責任をもってかかわらせていただかないといけないし、私たちの役割は、他の都市とか、他の開発が今どういう状況になってるのか、あるいは社会全体がどういう状況になってるのかということ、常に情報提供させていただきながら、一緒に頑張らせていただくということが非常に重要だと思ってますので、そのあたりでいうと、構想あるいは副委員長におっしゃっていただいたけれども、大きな方向性を共有していくということが重要だと思ってますので、来年度以降もこれの一つひとつは具体的に一緒に考えさせていただければと思っております。

《H委員》

地権者の代表の方とか、市の方とか、いろいろ意見をお聞かせ願ったんですけども、私ら耳にたごができるほど聞かされてるのは、とにかく絵に描いた餅みたいなことにならんようにと、いままで散々聞かされてきたんで、こういう構想の中で、市のほうとしても、約半分の地権者やから、お互い地権者としての立場の中で、これを実現させるのにどうしたらいいのか、工場誘致でも、我々地権者だけではどうにもならんので、行政の力をもって工場誘致も率先してもらって、お互いに協力しながらやっていきたいと思えますので、市は行政やということやなしに、一つの地権者として参画していただいて、大きな地主やから、私らはこれだけの土地を持つよ、だからこの土地をいかに有効利用して、これを個々の地権者の方々にどういうふうな提供の仕方をしますよとか、そういった方向性を、大きな地主そのものが乗り出して、こうしたらどうですか、こうしたらどうですかということで、我々個々の地権者と一緒になって、今後いろんな形でやっていきたいとは思ってるんですけども、とにかく今までみたいに、散々いろんな形で絵だけ描いてほったらかされたということやなしに、今後どういった形でどうしたらいいのか、その点をきめ細かに、何かの組織をつくってやっていきたいとは思ってるんですが、そういうことで市のほうも肝据えてとりかかってほしいと思えます。

《委員長》

ここの構想では、ずばりは書きませんでしたけれども、こういう開発をするときは、英語ではトリガーと言いますが、トリガーというのはピストルの引き金のことです。まず誰が引き金引くかという、こういうところが非常に重要でありまして、おそらくその役割は市役所なんだろうと、私は思っています。ですからまず一番最初にどの土地で何

をつくるのかというところが、非常に重要な役割をもってまして、そこをうまく活用しながら、周辺にどんどん波及効果を及ぼしていくということが重要かなと思っています。

もう一つ、一番最初のモノづくりがうまくいくかいかないかというのが、全員の地権者さんの気持ちを奮い立たせるのか、ああやっぱりあかんのかと意気消沈させるのか、非常に大きな役割を担っていると思いますので、そういう意味では、市役所が先導的なことをやってくださることが非常に重要だと思いますし、先ほどから申し上げてますように、市役所だけに任せるんじゃないくて、みんなが一番最初の開発計画がうまくいくように、集中的に、手を取り合いながら頑張っていくというのが一番いいやり方かなと思ってます。

そういう意味では、一番最初というのは非常に慎重にみんなで考えながら、しっかりと考えていき、実現をしていくということが重要ではないかなと思っておりますので、そういうところから動き始めるのかなと思っております。それが道の駅がいいのか、あるいは工場誘致がいいのかということも含めて、来年度以降お話し合いをさせていただければと思っております。

私の経験で、先ほどB委員もおっしゃっていただいたように、すべての地権者が一斉に気持ちが切り替わるというのは無理なことだと思います。じわじわ、じわじわ、気持ちが切り替わっていったって、それは話し合いの機会であったり、あるいは講演会なのかもしれないし、時間をかけて意識を皆さんと一緒に組み立てていくということが重要です。一番早いのは、見本ができるということです。そういう意味でも早くいい見本をつくっていただければと思っております。

《N委員》

意見とか質問というより、感想めいた話になりますけれども、先ほど副委員長からお話ありました57ページ、3つのまちということで、一つは住宅地として暮らすということと、産業がうまくリンケージしてまちににぎわいで活性化するということだと思うんですが、住むところについては、これは全く個人的なことですけれども、私は都市の郊外の住宅団地みたいなところに住んでるんですが、そこではまちづくり協定みたいなものあって、垣根は生垣にしなきゃいけないとか、植栽をきちんと手入れするというのが、入居する時点からの約束事になってまして、月1回住民のゴミ掃除というのがあるんです。毎月第3日曜日の朝、8時半からやってるんですが、どうしても20世紀型の考えですと、自分の敷地の中だけはきれいにしておくんだけど、道路は市役所がやってくれるんだとかいう考えが多いんですが、そうじゃなくて、住んでる自分のまちなんで、ここは地権者の方なり新しく入ってくる住民の方がまちづくりに参加していく、それがあるか、ないかで全然まちの雰囲気違ってくるんです。そういう意味でいうと、今回の構想の中でもそういった雰囲気がにじみ出されてるんじゃないかなという感想で

す。

もう一つ、産業については、私は日本政策投資銀行という政府系の機関でございますので、そういった面では我々も、今後計画の検討からは若干距離ができるかもしれませんが、個別の産業面の活性化については、組織挙げてお手伝いできる部分があるのかなと思っておりますので、引き続きいろんな形で関わらせていただきたいと思いますと思っております。

最後に1点だけ、かなりこれまでの経緯も厳しい部分もあったと思うんですが、それが逆に20世紀型のある意味押しつけ的な開発じゃなくて、21世紀型の、環境の共生であったり、地権者の皆さんが一体でやるような新しい考え方に基づいた構想ができたということで、ぜひ前向きにとらえていただいて、これを実現していただければと思います。感想でございますが。

《委員長》

市長がこられても、臨席していただく時間は30分ほどと聞いておりまして、すべての委員さんにご意見を市長に申しあげていただきたかったんですが、時間も無いということで、5名の地権者さんをお願いをしたいという手筈になっております。そういう意味では最後の検討委員会ですので、感想でもけっこうですので、すべての委員さんにお伺いをしたいと思っております。M委員、何か、ご感想でもけっこうですので、ご意見ありましたらお願いします。

《M委員》

商工会議所というのは、たとえば側面から応援するということでございますので、泉州卸団地したんですけども、ああいうのは問屋さんがどっか1カ所かたまって、適当な土地ないかということで、農家の人に分けていただいてこしらえたんですけど、磯上にあります工業センター、鉄工団地の集まり、そういうのも側面から応援してやったんですけども、旗振り役の人が2人か3人おったら進むんです。誰かやるやるなというのは、前へ進まないんです。

今度の希望として、業務用地お願いしてやっていただいたんですけど、いま企業は工場用地というのは需要がたくさんあるんです。今度整備機構こしらえて、推進していただくようになるとは思いますけど、でき上がるのが5年先か、10年先か。企業はいま土地ほしいんです。待ってくれないです。だから阪南2区の埋立でも、チタンの大工場が今度きてくれますが土地があるから建設にかかるんです。

だからこれは希望ですが、これから地権者の皆さんに説明して、検討を重ねてやっていかなあかんですけども、5年先にはまた5年先に新しい計画してる企業が来るかもわからんし、10年先はまた変わった形の業界が来るかもわからん、それはそのときの絵描

かなしょうがないと思うけど、企業というのはいつの場合でも、ここにこういう土地があるとすぐに手を出してくるんですけど、これからやりますわというやつはなかなか手出してこないんです。それだけお願いします。

《委員長》

そういう意味では、市役所が抱えるよりも、こういう機構的なところが抱えとったほうがいいのかもかもしれませんね。市役所が抱えてしまうと、どうしても予算の執行の手続とかいろいろあって、半年、1年延びてしまいますので、そのあたりもまた一緒に考えさせていただければと思います。

《F委員》

この計画で2年ほど関わって、お話し合いして、地権者さんのいろんな意見が出て、市の関わりでお話進めていただきたいということで、我々現場も行きました、ここにこられてる地権者さんと我々委員も現場2回ほど行って、箕面見学したり、いろいろの社会情勢とか、話し合いながら、この計画して、従前あった計画よりも、いまの経済の流れとしてはこういう計画が一番いいということで、こういう構想図ができたということで、委員さんには理解はされてると思うんです。

ただ、全然知らない地権者さんもおられるということで、いかに早くこういう基本構想を理解していただいて、だいたいの合意、地権者さんの約80%ぐらいを得て、先にコンセンサスを得て、これからもっと詰めた話もしていく必要があるんじゃないか。

基本構想ができましたということで、いざ行ったら、地権者さん、俺は知らなかったというんじゃないし、前もって、こういう構想を早く、こういうふうになりましたということで、全員に説明しないとイケませんね。委員さんは検討内容を把握して、いい基本構想だということは理解できているでしょうけど、わからないという地権者も居てると思うので、そのあたりを早急に、市さんとか地権者さん、両方で、こういう場をもたれたらという前提でいかれたらどうかと思います。

《E委員》

先ほど委員長言われた部分も同感なんですけども、とりあえず何かから一つかからないと。というのは、岸和田の今の計画の丘陵地区の両サイドにある和泉市のコスモ、貝塚市の東山丘陵はもうでき上がってるんです。和泉市なんかほとんど空いてるところがないくらい詰まってきてるんです。先ほど委員長言われた、また、M委員が言われた、とりあえず入っていける分を先につくらんと、それは市主導でなかったらできないと思います。とりあえずそのほうに市が向いてくれる、府が向いてくれるというふうにせんと、何も生まれえないと思うので。

それと同時に、前から気になってる錯綜してる権利関係とか、そういうものはできる所から、市がいま寄付してもらったというか、市のものになった土地の、それだけでも早く手をつけないと、いつまでたっても前にいかないという思いがあるので、それも市長さんにはお願いしたいと思ってるんですけども。

《委員長》

私も他のところでもいろいろとお手伝いしてますけれども、何でもかんでも来てもらえたら良いというものでもないから、20年後、30年後考えたときに、あるいは周辺との影響を考えたときに、確かにある企業がきたら、一時的に雇用は生まれます。けれどもその雇用が、その企業さんだけの雇用ではなくて、周辺にいろんな良い影響を及ぼすような関係づくりをして呼んできた方が、長いスパンで考えるときは良いかも知れないなと思ってるんです。

もっと具体的に言うと、Aという企業さんがある土地に来ました、隣の土地にはBという企業さんが来ました、このAという企業さんとBという企業さんがなんの関係もない、ただ土地が埋まってる、別々の従業員さんを雇って、量的には雇用が生まれてるといようにするのか、あるいはAという企業が来たときに、Bという企業は関連性のあるような、あるいはBという企業が周辺の、農業の方とか、いろんなことに関係のある様な所に来ていただくというような、そういうシナリオを持ってきていただいた方が、長いことを考えたときには良いと思うんです。

そういうところに、あまり悠長なこと言うてられませんけれども、皆さんともう少し意見交換をさせていただいて、やっていった方が良いのではないかなと思いますので、ちょっとイライラする部分もあるかも知れませんが、あと半年ぐらいは一緒に考えさせていただいた方が良いのかなという気はしています。

《C委員》

私、この委員会に参画させていただいたのは、市民としての公募で応募させてもらったんです。その目的は、自分とこの岸和田のこの地域がどのようにして開発されるのかという好奇心が一つ。お題目は、できるだけ自然を残してほしいな、自然にマッチした、自然環境を保全することで開発してもらいたいなということで、入らせてもらったんです。

幸いに、いろんな地権者の方々とその間いろいろとお話をさせていただいて、ああと思ったのは、私が認識してる所有者の方のいろんな権利関係というのは何種類もあるんだな、それから地元の方々がどれだけ一生懸命悩んでおられるかということを知りました。

また、こういう問題、開発の場合は、私たち一般市民がこの委員会に入らせていただ

いて、何ができるんだろう、どういうことをさせてもらって、万分の一のお手伝いでもできることが何かないかなということ、それを意識したというのが、私の2年間の総まとめの感想でございます。

《委員長》

C委員のように、地区外の市民の方々のご協力いただかないといけない部分もたくさんあるかと思ってます。昨日の午前中も、箕面の山の整備の委員会やってたんですけども、いま箕面市はNPO法人をつくっていただいて、整備機構をつくってるんですが、そこが国土交通省系の外郭団体の補助金をいただいて、5年間で2,000万円つけていただきました。市の持ち出しは一切ございません。この2,000万円のお金でいろんな上物整備とか、そういうものを考えていこうということです。上物といってもそんなに大きな上物ではないんですけども、それは市民活動の拠点をつくっていこうということで、市民グループに助成をさせていただきましようということにしました。

国土交通省から原資をいただいて、そのお金を今度は市民活動の拠点整備に助成をさせていただきましようということになって、4つのグループさんが手を挙げてくださいました。一つは、炭の伝承を考えてらっしゃるグループさん、大阪北部から兵庫県の北部にかけて、菊炭という、切り口が菊のような形の高級炭があったんですが、箕面のほうでは途絶えていたので、それを復活させて、菊炭の生産、販売を考えたいという市民グループさんが手を挙げてくださりまして、その拠点到100万ほしいということで、差しあげるということになったんです。

この岸和田でも、地権者さんが昔ながら炭焼きやってらっしゃったと思うんです。炭焼きというのは2～3日の時間かけて、大変な作業なんです、市民グループさん、喜んでやってくださるんです。前も申し上げましたように、地権者さんが生業としたらしんどいなと思うことを、いま市民グループさんは喜んでやってくださいます。

そんな事を、お金も若干助成も差しあげながらやると、うまい仕組みをつくると、市民の方どんどん、山の管理とかにも協力していただく、あるいは新しいおもしろい産業を起こしていただけるような可能性もあるなというのを感じましたので、そういう意味で、C委員もそういう一翼をいま担っていただいておりますので、何万分の一じゃなくて、かなり大きな割合で仲間の方と一緒に協力いただくと、可能性としてはあるかなと思っております。

私自身は、ずっとこれからもお付き合いをしますという話をしておりますが、副委員長もよろしければ来年度以降も関わっていただけたらと思っておりますし、私以上に副委員長は、お住まいが阪南ですので、すぐに来ていただけますので、そういう意味ではずっと一緒に関わっていただけたらと思っておりますので、よろしく願います。

市長がお見えになるまで、その場で休憩をしていただいて、市長との懇談会をさせて

いただきたいと思います。地権者の方々には市長にいろいろとお話をいただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

休	憩	午前 10 時 56 分
再	開	午前 11 時 00 分

《事務局》

ただいまより委員長から市長へ答申をお願いしたいと思います。

《委員長》

岸和田市長野口聖殿、岸和田市丘陵地区整備計画検討委員会委員長久隆浩、岸和田市丘陵地区整備計画基本構想について答申。平成 18 年 7 月 28 日付にて受嘱しました標記のことについて検討した結果、別添のとおり答申いたします。

(答申書手交)

《野口市長》

ありがとうございました。

《事務局》

それでは 2 年間続けてまいりました委員さまを代表していただきまして、権利者の 5 名の委員さんに、2 年間で振り返って一言ご意見をお伺いしたいと思います。まず H 委員さんからお願いします。

《H 委員》

ご指名いただきましたので、2 年間委員として、地権者の代表として参画させていただきましたけども、10 回にわたって色々と検討してまいりまして、委員長なり副委員長から、こういう事例がありますよとか、そういった事例なり、いろいろな構想をお聞かせ願って、我々地権者としても、各地権者が、それならやろうよというような形で賛同してくれるようなものを、今後何とかつくっていきなという意欲が出てきましたので、過去 20 年間、市長もご存じやと思うけども、絵に描いた餅みたいな形で、絵ばかり描いて過ごしてきたということの頭が、地権者の中に大勢おるんです。今回もまたそんな絵ばかり描いて、うまいこといかんやないかという考えの人も多数おられますので、先ほども言わせていただいたけども、市としても半分の土地を持ってるんで、大地主やから、何とか大地主のほうから、うちはこういうような形で皆さんに協力しますよ、

だから皆さんもこれにはこういう形で協力してほしいといったようなものを出していただいて、できるだけ早い機会に、小委員会なり、いろんな形のものをつくって、ずるずる引き延ばすんじゃなしに、一月に何回寄っても構わへんから、早い機会にこういったもの地権者に、とにかく今こういうようなことをやってますよということを浸透してやらんと、長年ほったらかされたもんやから、何とか立ち上げていきたいなど、我々も思ってるので、早い機会に、そういった委員会なり小委員会なりつくって、地権者の方に、毎回、毎回でもかまへん、浸透していけるような形を取っていただきたいと思えます。

我々としても、2年間こうしているような形で皆さんにご協力願ってやってきた中で、今後も、委員の方、解散したんやからもうやらないということやなしに、こんなんどうだという助言なり、いろんな形の知恵を拝借しながら進めていったらどうかなと思えますので、委員の方、この場限りやなしに、いろんな形で、出席してくれるなり何なりしてもらって、協力していただきたいな思えますので、よろしく願いいたします。

《K委員》

2年間、皆さんと一緒に勉強させていただきました中で、こういう立派な構想案ができましたので、先ほども委員長をお願いいたしましたけれど、地元の地主が我々5人、いま参加させていただいておりますが、もっとたくさんの方おられます。その人らの協力なかったら、おそらく実現できないと思えますので、地主の方々にしっかりと説明して、理解していただく、こういうことをお願いしたいと思えます。

コスモが土地を購入の計画されて、20年同じようなことの話、地主のほうの人は思っておりますけど、そのときに元気でおられた方ももう80過ぎてて、私の生きてる間に出来ない、こういう意見もたくさん出ております。そういうことでできるだけ早いうちをお願いしたい。

それと常に言われておりますのは、和泉市のコスモとの比較がございまして、和泉市のコスモはほとんど完全に企業が入っております。いろんな会社が入っておりますけれども、常に比較されております。今度また高速の下りたところ、和泉市側に商業施設が来るということで、かなり大きい店ができるということで、もう工事どんどん、事務所もできてやっております。そういうことで、市長はじめ、議員さん、職員一丸となってやってほしい、貝塚の東山もかなり大きく開発されております。そういうことで地元ではあきらめと期待と両方ございます。どうぞよろしくお願い致します。

《A委員》

岸和田も、この近辺からすると、阪南2区開発されてますけども、一番開発が遅いな。今回和泉にしる、堺のシャープさんが来るにあたって、かなり岸和田の方に住宅の需要

が増えるんじゃないかと、私は思ってます。そのために山間部の岸和田コスモに完成させてもらったら、岸和田のほうも発展するんじゃないか。それについてはお金が一番の問題ですので、よろしくをお願いします。

《B 委員》

やっとここまで来たのかな、2年間かかって。いいますと、教科書ができたようなものだと思うんです。これから勉強しながら、一つひとつ問題点をつぶしてやっていかなきゃあない。行政も前向いてお願いしたいと思います。本当に長い20年間やったと思うんです。我々も正直言いまして、50代半ばの人間がもう70代半ばになっておりますので、話を前へ進めてもらわないと、先ほど仰ってたとおり、生きてる間にできないかなという危惧もしますので、そのへんどうかよろしく願いいたします。

《E 委員》

2年間に的を絞らせていただきましたけども、これからすぐやらなあかんことがいっぱいあると思うんです。特にお金の面、市長さんのほうで予算でもつけてもらって、まず何かから始めるということを先にしてもらわんと、前へ進まないと思います。大阪府も緊縮でしてるけども、後に良いもんができるための投資といいますが、予算でしたら、絶対あとで生きてくると思いますので、どんなことでも、丘陵地区整備課のスタッフさんでも、できることをまずやっていただきたい、それがお願いです。

《事務局》

ありがとうございます。権利者の代表の方からご意見をいただきました。引き続きまして、この委員会の運営にあたって多大なご協力いただきました、委員長並びに副委員長から一言お言葉をいただきたいと思います。

《副委員長》

皆さまと一緒に2年間やらせていただいて、市長さんとお会いできる機会をいただきましてありがとうございます。

私たちが考えてきました岸和田のまちづくりというのは、このまちが私たちが生活できる、生活を中心としたというキーワードと、もう一つは、農業を中心とした産業、企業誘致をするという産業、これが2つ目のキーワードといたしまして、もう一つは自然環境を守りながらという、この3つのキーワードでまちを進めていけばいいかという結論だったかと思います。

それをみんなでやっていこうという組織化できたということが、これは非常に大きな点でありまして、今後もこの組織をさらにバージョンアップさせて、継続できるという

ことで、委員長はじめ、微力ながら私もできるだけ参画させていただきながら、まちづくりを進めさせていただきたいと考えておる次第です。

ですからこの3つのキーワードと組織化するというのを全市挙げて、できるだけバックアップしていただけるような体制づくり等々を市長さまにもご配慮いただけたらありがたいというのが、この委員会の副委員長としての私の意見でございますが、今後ともこの丘陵を市の重点施策というふうな位置づけで日頃ご配慮賜ればと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

《委員長》

私だけではなくて、皆様のご協力いただいて、ここまでまとめることができました。これを市役所も受け止めていただいて、一つひとつ実現をしていただきたいなと思っておるんですけれども、当初、2年前、私がこれを承ったときに、大変な仕事やなど、正直思いました。1回目の委員会は、どうしてもいままで20年間市は何してきたやんというところから始まったと思っております。それは正直な地権者さんの気持ちだと思います。そのときに私が申し上げたのは、ほかの破綻をってしまった開発よりも、まだ手をつけてない部分よかったのではないかとこのところからお話を始めさせていただきました。新銀行東京ではございませんが、いったん手をつけてしまいますと、どんどん税金を投入しないといけないという状況になってまいりますけれども、ある意味でこのコスモの開発の会社を清算していただいたというのは、英断もあったと思っておりますけれども、いい機会ではなかったのかなと思います。一旦そこで一線を区切らせていただいて、これから先をどうのように考えさせていただくかということで、皆さんと一緒にこの2年間知恵を働かせていただいたと思っております。

特に5人の地権者委員さんの中では、H委員さんが地元の協議会の会長としても、ある意味でこの構想の委員会と地元の地権者さんの思いの狭間に入っていて、大変な思いをしたのではないかなということをお察しております。先ほどそういう声もあったと思っております。この5人の委員さんは一緒につくらせていただきましたので、この方向でみんな頑張ろうよということになっているんですけれども、K委員さんもおっしゃっていただいたように、まだまだ地域に帰りますと、いままでのように市役所に動かしてもうたらええんじゃないかという声も多いと思っておりますので、そのあたりの温度差を徐々に解消していただくような、そんなことも市役所も場所をつくっていただいたり、いろんな機会ですべていただければなと思っております。

これだけの開発でございますので、市役所全部ができるということではございません。地権者さんのご協力とか、さまざまな方のご協力いただいて進めていく必要がございますし、少なくともいまここに集まってくさる皆さんは、私たちもある一定の汗をかきながら、一緒に進めていきたいというお声をいただいておりますので、そのあたり

うまく市役所のほうでコーディネートしていただいて、やっていただければと思っております。

私自身は、国交省のほうともかかわっておりますけれども、この前、近畿地方整備局でまちづくり交付金事業の表彰式に出させていただきます。そのときに近畿地方整備局の部長さんも仰っていたんですが、これからの時代、全国押し並べて補助金を差しあげるのではなくて、創意工夫をした地域には、一緒にメニュー、内容も考えさせていただいて、地元が使いやすいような形で補助金をつける時代に入ってきてますので、何か困ったことがあれば、近畿地方整備局のほうに直接言ってくださいというようなお話もいただきました。そういう意味で、これからどんどん皆さんのお知恵もいただきながら、うまくお金が引き出せるような、そんな創意工夫もしていければなと思っております。

最後になりましたけれども、先ほど地権者委員さんも何人もおっしゃっていただきましたけれども、まずモデルをつくっていただいて、先鞭を切っていただくのは市役所だと思っておりますので、そういう意味でも、市長さんはじめ、これから絶大なご協力いただきながら、ともに開発を進めてまいりたいと思っておりますので、これからもよろしくお願ひしたいと思ひます。

《事務局》

ありがとうございます。引き続きまして、市長よりご挨拶をいただきます。

《野口市長》

改めまして、皆さんこんにちは。市長の野口でございます。

委員長はじめ、委員の皆さま方には、コスモ、岸和田市の丘陵地区整備計画基本構想、2年間、お忙しい中、検討いただきまして、本当にありがとうございます。心から感謝を申し上げる次第でございます。

ご承知のとおり、この丘陵地区の整備でございますが、旧来の岸和田市のコスモポリス計画、これが17年3月に破綻ということになったわけでございます。私も市長就任以来、地元に行って、大変なお叱りも受けました。そのときに、大きな計画ではなしに、できるものから、実現可能なものやっけていきたいんだということで、力を貸してほしいということで始まったわけでございます。

それから実現可能な計画をつくるために、18年7月にこの検討委員会を立ち上げさせていただきます。以後2年間、都合10回ということで、本当に皆さま方にはご苦勞おかけいたしました。そして貴重な提言をきょういただいたわけでございます。

今後早急に内部協議を進め、また、関係機関と素早く協議を進めながら、そしてまた提案の中でいただいております、仮称ではありますが、丘陵地区整備推進機構の設置も提案していただいておりますので、その趣旨に沿って今後早急に進めていく

覚悟でございます。

先ほど委員長さんはじめ、委員さんの方々から貴重な意見いただきました。それを十分参考にしながら、迅速に今後進めてまいり所存でございます。どうか今後とも皆さま方のより一層のご指導、また、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、簡単でございますが、ご挨拶とさせていただきます。2年間、本当にご苦労さまでございました。ありがとうございました。

《事務局》

どうもありがとうございました。以上をもちまして、第10回岸和田市丘陵地区整備計画検討委員会を閉会いたします。

閉 会 午前 11 時 20 分